令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立小池小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・各学年の配当漢字定着のため、大田区漢字検定を活用したり、漢字学習を繰り返し行ったりすることを通して、目標値を上回ることができた。
- ・オープン・クエスチョンなど、相手の思いを引き出す方法を学び、活用することを通して、言語能力の向上を図ることができた。

(2) 課題

- ・校内正答率は全体として目標値を上回っているが、5年生については書くこと、6年生については話すこと・聞くこと、情報の扱い方に関する事項の正答率が低かった。これらの課題を解決できるような活動を意識的に授業の中で取り入れていくなど、指導を工夫していく必要がある。
- ・4年生と6年生で知識・技能の正答率が昨年度より下がっていた。言語の特徴や使い方に関する事項が習熟できるよう、指導の改善を図る必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	◎	/	/
第5学年	◎	○ (第4学年時)	/
第6学年	◎	◎ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的な正答率は目標値を上回っているが、主語と述語との関係についての問題の正答率が低かった。	正答率は目標値を上回っている。交流会についての問題で、司会の役割を果たしながら話し合い、考えをまとめる問題の正答率が低かった。	正答率は上回っているが、書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考える問題では、誤答や無回答の割合が多かった。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率は目標値を上回っている。5年生では、漢字に関して誤答や無回答が多かった。6年生では、敬語について理解し、正しく使うことの正答率が低かった。	正答率は目標値を上回っている。5年生では、調べたことを文章に書く問題の正答率が低かった。6年生では、報告する文章を書く問題の正答率が低かった。	正答率が目標値を上回っているが、自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして書く問題で正答率が低く、無回答が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○漢字や平仮名、片仮名の筆順や読み方がより定着し、語彙が豊かになるよう、漢字や平仮名、片仮名の学習に繰り返し取り組む時間や音読の時間を設けるようにする。	○事柄の順序に沿って簡単な文章の構成が考えられるように、メモやワークシートを活用し、短い文章を書くことや作品を読むことに慣れる機会を設定するようにする。	○単元の初めに学習の見通しをもつことで、目的意識をもって学習に取り組めるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○文章を書いた後に、自分で読み返したり友達に読んでもらったりする活動を設けて、主語と述語を文章の中で正しく使えるようにする。	○話合いの活動を通して、司会台本などを活用することにより司会の進め方を身に付け、活用できるようにする。	○デジタル教材を活用したり、発問の工夫をしたりすることで、児童が学習内容に興味をもち、目的意識をもって学習に取り組めるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○宿題や小テストなどで漢字を正しく書けるよう繰り返し練習したり、確認したりして、定着を図る。 ○相手を意識して書く活動などを設定して、敬語を正しく理解し、活用できるようにする。	○調べたことを文章に書いたり報告する文章を書いたりするなどして、文章を書く機会を増やし、伝わりやすい文章を考えられるようにする。	○児童の興味や関心を基に課題設定することで、児童が主体的に学習に取り組むことができるようにする。